

食品産業生産性向上フォーラムin 金沢 開催結果報告

2018年6月5日（火）13時より金沢商工会議所にて、「食品産業生産性向上フォーラムin金沢」を開催した。参加者総数は52名、うち食品関係者が24名であった。他、ロボットや食品機械関係7名、メディア関係は0名、その他21名であった。フォーラムの内容は下記のとおり。

1. 趣旨説明（農林水産省食料産業局食品製造課 吉濱祐介氏）

日本の食品産業の労働生産性は、日本の製造業の労働生産性の約6割に留まり、また海外に比べて低い状況となっている状況にある。日本が今後食品製造業の拠点として様々な産業を招いていくためには、食品製造業の労働生産性の向上が鍵になる。

製造ラインのどこを直せば生産性が向上するのかは、課題を見つけて一緒に改善していくパートナーを探していくことが重要になるが、そういった場を提供することも本フォーラムの目的としている。本日は、ロボットメーカーやコンサルタントからのプレゼンテーションを聞いた上で、後方の交流スペースで交流を深めていただければと考える。本フォーラムを通し、皆様が労働生産性向上のきっかけを掴んでいただければと考える。



弘中泰雅氏基調講演

2. 基調講演（食品生産性向上フォーラム企画検討委員長 弘中泰雅氏）

加工型食品製造表の生産性は製造業平均の約50%しかなく、生産性はギリシャと同レベルであり、中進国レベルであるのが現状である。食品産業において生産性が低い理由として、中小零細企業が多いためと言われているが、実はそうではない。生産性低迷の原因は歴史から探る必要がある。終戦後暫くは、食品の生産性は、自動車等の他の製造業より高くすらあった。しかし、終戦後、自動車産業は“昭和の遣唐使”の効果があがりぐつと伸びていった。食品産業からの参加者はほとんどなく、経営者の意識改革ができなかった。日本の食品製造表の給与は製造業平均の6割しかないのが現実である。給与が良いところには人は入っていくので、この点を食品生産性は反省すべき点である。食品製造業が低迷した原因は、「自動車産業と異なり、食品産業はマネジメント経営を取り入れられなかったこと」、「経営者の低い意識のせいで、第三次産業革命に取り組みなかったこと」、「低い労働の質（低いITリテラシー）」の3点が挙げられる。

3. 基調講演（一般社団法人 日本ロボット工業会 高本治明氏）

国内の人手不足は近年深刻な状況であり、特に食品産業では悲惨ともいえる状況である。そのため機械化への期待や、ロボット出荷額も伸びており注目度も高い。先進技術、AI技術の発展により、導入が可能になった食品産業でのロボットの使われ方の具体的な説明と、あるいは導入しても生産性の低下を招く場合があるケースなど、ロボットとはどのようなものかを紹介しつつ、導入時のポイントやメリット、リスクについて説明いただいた。

4. 先進事例紹介（ジェイアール東海パッセンジャーズ 代表取締役社長 河原崎宏之氏）

東海道新幹線における弁当の製造・販売等の多岐にわたる事業を行っている。弘中先生の書籍を勉強した社員の発現がきっかけで、弘中先生への講演やコンサルティングを依頼。

弘中先生の指導の下、2年で生産性を2割向上させることを目的としている。1つめの取組事例として、弁当の盛付工程における従業員の時間に対する意識変化や器具の置き方等の工夫に関して紹介。また、2つめの事例として、御飯盛り機による自動化、ガントチャートによる加熱職場業務の見える化等による作業の省人化、自動化を紹介。

5. 先進事例紹介（株式会社オフィスエフエイ・コム 青木 伸輔氏）

食品産業におけるロボット導入が進まない理由として、製品サイクルが早いこと、設置スペースが狭いことや、コスト面の問題がある。オフィスエフエイ・コムでは、スペースについては移動型のロボットを用いる等様々な解決方法を提示している。また、近年ではコストメリットのみでなく、定性的評価も重要視されてきている傾向がある。

その後動画を用い、お弁当盛り付けロボット、クリームコロッケ整列、揚げ物の引き揚げロボット、フィルムカットロボット、仕分け・箱詰めロボット、ダンボール開梱、具材検査、野菜の糖度検査などの事例を紹介。

6. 生産性向上支援事業者によるプレゼンテーション

下記の支援事業者10社よりプレゼンテーションをいただいた。
ニチワ電機（株）【厨房機器】、（株）パインス【ロボットSIer】、
オムロン（株）【ロボットメーカ】、CKD（株）【装置メーカ】、
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構【研究】、
（株）シナプスイノベーション【ソフトウェア】、（株）エムジェイ・エムシー【コンサルティング】、（株）セールスフォース・ドットコム【コンサルティング】

7. 交流会

後半プレゼンテーションでは、隣室に交流会場を設置し同時に交流会を実施。講演者やプレゼン事業者と交流を行った。



フォーラム風景